

## 自分で探すこと

電子工学科 森宗太一郎

自分の好きな本を探すことはとても難しいことだと思う。とくに学生の頃は、本を読みたくなくてもどの本にしようか長く悩んだ。それでも人に勧めてもらった本を心から好きになったことは一度もなかった。

高専や大学は自我に目覚める人生の大切な時期にあたると思う。私自身を振り返ってみると、本高専の寮に入って一人暮らしをしたいという好奇心と独立心のような願望があった。少しでも未来へ希望をつなぐヒントがあればと思い入学した。自分の生活を豊かに生きていくためには、学校へ入ってからどんな勉強をしてきたか、若い頃にどんな夢をえがき、どうやってそれを実現するのかということが大切である。

世の中には、一流という名のつく大学や企業に入っただけで人生バラ色だと考える人が少なくない。しかし、現実はいい大学に入ってもメリットはほとんどなく、いい会社に入っても幸せになれる保証はどこにもない。自分の得意なものが何かわからない人間に自信がつくわけがない。自分に自信が持てないから安定志向に走る。自分の人生は自分で決めるべきだ。今本当にやりたいことをとことん追求するべきだ。

自分の頭で悩んで考え出すことを面倒に感じる人は多い。できるのなら、全て人まかせにしたいとまで思う人間もいる。自らの境遇に疑問を感じはじめたら、それについて考え、悩まなければならない。しかし、そんな面倒なことからは逃げていっそ思考を停止すれば気が楽になる。敷かれたレールの上を、何も考えずにただ歩くのは楽だし、脱線さえしなければ目的地に辿りつくこともできる。

誰でも責任を取ることはできるだけ避けたいと思う。仕事や生活の中で問題が起きたら誰かに責任を押し付け、自分はその人間を非難すれば高所から見物できる。しかしいずれ、自分の頭で考えず自分の人生を決断してこなかった人間は、自信のない夢を失ったロボットのような顔つきになる。もしもそれがやりたいこと、本当に好きなことではなかったら、ちょっと足を止めて考えてみる必要がある。そしてなにが自分のやりたいことだったのか、本当に好きなことだったのか、振り返ってみる。いつかそれが見つかったらやり直すこともできる。もしも可能なら、勇気を出して道を変え、本当にやりたい事や好きなことにチャレンジすればいい。

好きな本を自分で探すことは、いつか自分のしたいことを探すヒントになる。そして好きなことを仕事にしている人は心から素敵だと思う。